



冬にあさすねる四本の園ノ開の

戸をて通りし 一 物一是ハ都乃可

梅津れ何しとら家事也我水野

死にしつ子よあゆまをこころ作紙

不^レあは夜ノ冥夢よわれ所信を及

けく^レ五樂をす^レ一森活^レせとのい

中^レあ^レく^レる^レる^レ今九洲小下向仕い

一寸きり 元皇に火燭の輪塔も
翠帳紅圍乃粧ひしと云す古
寺の齋跡あり晨鐘夕梵乃響く
事なり 孝に心をなす草花也
申せどもおぼ浮世の理を志す
海く浪木の中は松梅ハ
天神玄法自愛しく紅梅を老松も

皆未と現行ありしまら此二
木ハ前朝よりそけい漢高子徳とあり
り唐の頃の玄化時ハ國ハ文學
しる事乃を父を母を白つ
しんはるる文學すこれハ句
なく只色しるらぬ扱ふ文を
これぞ木成きると梅を及ぬ又木

かきりて苦れむとまや 言のをす
返松竹下 秋のまよき 又まに 秋の
くはは 君のけり 未まもれや 我神託
乃ほを 秋まよき けり 梅も けり
まよき けり けり けり

